月桃（げっとう）通信 No29　2022 年 2 月 20 日

日本復帰 50 年と沖縄の心

石原艶子

○主はこの地を圧倒される、地の果てまで戦いを断ち、弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。力を捨てよ、知れ、わたしは神（詩篇 46：9～10）

○涙と共に種を播く人は喜びの歌と共に刈り入れる（詩篇 126：5）

○覚悟した一人の人間はどんな組織よりも強い（佐敷教会　金井創）

日本友和会　JFOR

☆復帰 50 年に寄せて――

沖縄はこの 5 月に本土復帰 50 年を迎えます。米国統治下の苦難の中からウチナーの心がひとつに燃えて本土復帰を切望し、闘って得た復帰でしたが今、復帰したことは真に良かったのだろうかとの問いが生れています。2022 年の現在、空をつんざく戦闘機の爆音に耳をふさぎながら、私はこの半世紀の沖縄の歴史を思い巡らしています。復帰によって、銃剣とブルドーザーで奪われた集落と農地が返ってくることはありませんでした。故翁長知事は生前言っていました。「本土並みを合言葉に県民の努力で勝ち取った復帰だったが真の民主主義の実現など県民が強く望んできた形になっていない」と。またある会談の折、本土の自民党議員が大声で「基地は、本土が嫌だと言っているんだから沖縄が受け入れるのは当り前だろう」と言ったことを聞いて著しい認識の隔たりに絶望感があったと語っています。そして「沖縄の歴史と苦悩、そしてウチナーの誇りをこそ訴えなくてはならない。」「ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランドー（沖縄の人を馬鹿にしてはなりませんぞ）」と力を込めて語られました。復帰によってウチナーの願いは何ひとつとして叶えられないばかりか辺野古新基地までもが造られ、与那国から先島へのミサイル配備など軍事基地の拡大と強化は進む一途の現実を見て何とも言い難い空しさと悲しみの感情がこみ上げてきます。復帰 50 年の節目に、政府は沖縄を日米安保の要として最大限利用するために政府主動での記念行事を計画するでしょう。私たち県民はオール沖縄のアイデンティティーでひとつになって県民の叡知を結集して県民主体の記念行事をすべきだと私は思います。ウチナーの心を日本政府と国民に向けて、米国と世界に向けて発信する県民大会を開催してほしいと私は願っています。復帰 50 年の今だからこそ平和を実現するため「人殺しの軍事基地は要らない」を決意し訴える時だと思います。米国と日本政府が決して奪うことが出来ないものがあります。それは平和を希求するウチナーの心です。ウチナーの誇り、アイデンティティーを尊重してウチナーと向き合う本土の人々であってほしいと心から願います。

☆日米安保――

日米安保は沖縄からはよく見えます、それは沖縄の犠牲の上に成り立っているからです。然し多くの日本人はそのことに無感覚であって、無意識の沖縄差別に陥っています。日米安保を信じて支持している大半の日本人は今、目を見開いて沖縄の現実を見なくてはなりません。戦後 77 年の現在まで、ずっと爆音、環境破壊と汚染、事件事故と検挙にいとまがありません。今年第 4 次嘉手納爆音訴訟が 1 月 28 日提訴されました。原告は 3 万 5566 人、沖縄市・うるま市など飛行ルート下の住民も加わっています。私共も原告の一人です。嘉手納町の 3 分の 2 は米軍基地、住民は海の埋め立て地に追いやられ爆音にさらされ、生命の不

安を抱えての生活を 77 年も強いられているのです。日本は 1945 年８月の敗戦によって、平和憲法を神から与えられました。九条で戦争の放棄、戦力を保持しないことを世界に向って宣言し約束しました。然しそれは表面的な建て前であって、内実は全く違っていたのです。日本人の本心は天皇国家ナショナリズムを保持し、軍事力を持ち、しいては核さえも保持して強い国になる道を放棄することは出来ませんでした。だからアメリカに従属し、アメリカの軍事力に守ってもらう日米安保の戦後をひた走り、今やアメリカの代理戦争までやりかねない日米一体の軍事国家となりました。そして国民の大半は日米安保を支持し、政治家は野党さえも日米安保の同じ土俵の上に立っています。何故私たちの国は日米安保の国になってしまったのでしょうか。それはアジアの国々を侵略して何千万人もの人々を殺した戦争の罪の代価なのです。聖書には**「罪が支払う報酬は死です」**とある通りです。罪の負債は何と重く大きいことでしょう。先の先の世代の人々にまで大きな苦しみをもたらしてしまうのです。日本は日米安保を破棄して、アジアの国として真の独立国になれるのでしょうか。真の平和は死の商人であるアメリカから離脱して、武器を持たない平和憲法の下に立ち返ることしかありません。**「剣を取る者は皆、剣で滅びる」**これが歴史の真実です。然し人々は抑止力としての軍事力を持たなくては平和は守れないと言って私達を嘲笑します。私たち平和を作る者の道は細く険しく少数者の道かもしれませんが、地を嗣ぐ残りの者の一人になりましょう。**「一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ。」（ヨハネ伝 12：24）**

☆台湾有事とは―――

沖縄にとっては台湾も中国も大切な仲良しの隣国です。争う理由などどこにもありません。日米安保の名の下に、ウチナーが大切にしてきたちむぐくる（人の心に宿る、より深い想い）が日本政府によって壊されて利用されることは耐え難い事です。安倍元総理は「台湾有事は日本の有事」と平然と言っては不安を煽り立て、それにマスコミも便乗して中国は敵国であるかのように宣伝することによって大規模な日米共同軍事訓練を拡大させています。抑止力を盾にして、憲法改悪を成しとげようと、今年がその正念場なのです。私たちは、隠ぺいとだましの名人なる政府にだまされてはなりません。軍隊を監視して正しい情報をつかみ、共有して軍拡を止めていきましょう。台湾有事を防ぐために沖縄の役割があるはずです。だます政府の罪深さとだまされる沖縄の悲哀を繰り返してはなりません。

☆だましの一例として―――

私たちは辺野古は新基地と初めから言ってきました。然し政府は世界一危険な普天間基地を返還するための代替基地だと言い続けています。先日、松野官房長官が「辺野古新基地」と口をすべらせて問題となり、慌てて訂正しましたがこれも本心の表れでしょう。日米政府には普天間を返還する気などさらさらなく県民をだましているにすぎません。また最近、那覇軍港での軍事訓練が県への通達もなく実施されて大問題になりました。那覇軍港は浦添に移転することに決まっていて、軍港は使用されないはずでした。これも辺野古と同じく、両方使用する計画があらわになりました。政治の世界に信用できるものは存在しないことが分ります。**「悪を耕す者の心には裏切りがある」**の通りです。

☆PFOS（有キフッ素化合物）公害―――

軍隊は環境汚染の元凶であり、コロナ感染者蔓延の加害者でもあります。良きことは何ひとつとして生み出さない 100%負の存在です。PFOS は泡消火剤として 1960 年代から使用され、基地内外の土壌と水を汚染し続けてきました。その有毒性は公表されることもなく住民の命と健康を損なってきました。日本政府は、基地反対闘争を恐れて、見て見ぬふりを通してきたことが分ってきました。私たちは水俣病、カネミ油

症、アスベストなどその他多くの公害病で苦しんできました。そしてここに来て長年隠ぺいされてきたPFOS が新たな公害病としてクローズアップされるようになりました。最近注目されているダーク・ウォーターズという実話に基く映画が公開されていて観てきました。巨大企業デュポン社による垂れ流しのPFOS 公害に対して命がけで闘った弁護士の記録です。土地を汚され、牛の大量死、農民達の病気などの事実と向き合い、全住民の血液検査を実現させ結果が出るまで 7～8 年を費やし、デュポン社は認め保証することになりました。大企業デュポン社は数十年前から PFOS の有毒性を認識していながら企業利益を優先させて莫大な富を得ていました。ここにも人の命よりも金を取る企業の深刻な罪の実体が見えてきます。そしてこのような企業こそは軍事（死の商人）と一体であることを私たちは知らなくてはなりません。PFOS は沖縄だけの問題ではありません。ダイキンは 20 年も前から危険性を認識していながら、垂れ流し、高濃度の PFOS を蓄積して水を汚染し、その水を使った農地での米や野菜を汚染していたことが明らかになりました。知らずにその野菜や米を食べていた住民の健康被害への不安は高まっています。三人に一人はガンになるというこんな時代を私たちは作ってしまいました。それは人の命よりもお金を選んだ結果なのです。命どぅ宝とは人間の命を最も大切にすることです。ウチナーが昔から一番大切にしてきた心、そして沖縄戦で失った数十万の魂たちの叫びでもあります。金を選び欲望を追求する道は滅びです。今こそ憲法９条の精神に立ち返り、命への方向転換をしなくてはなりません。先の先の世代の人々のために。

☆世論が政治を変える、憲法９条を死守―――

政府が最も恐れるのは世論であり支持率です。だから政府は隠ぺいや騙しによってマインドコントロールしようとします。今年は憲法９条改悪の正念場を迎え、自民党は結党以来の悲願達成のため必死です。９条は既に無視され、自衛隊は軍隊となり大規模な日米共同軍事訓練が行われています。然し戦争放棄、戦力放棄の９条は最後の砦です。９条は人類最後の宝ものです。神様が敗戦後の日本に与えて下さった人類最高の愛の贈りものです。何としても守り抜くために力を合せて闘って参りましょう。

☆名護市長選の敗北―――

敗北はオール沖縄にとってたとえようもない大きな痛手でした。敗因はいくつもあると思いますが一言で言えば政府のひも付きの〝**金**〟に名護市民の心が奪い取られてしまったことです。最も悪いのは政府であって、誰一人として名護市民を責めることは出来ません。ひも付きのお金は一時的であって将来に禍根を残すでしょう。お金によって自立力、思考力、生きる活力は奪われて人口も減り、衰退していくことでしょう。そして、戦闘機やオスプレイの爆音に苦しみ、海は汚染され環境は悪化していくのです。今は苦しくても稲嶺市長時代の八年間のように市民の創意工夫によってお金を生み出し、助け合って生きる活力ある名護市はどこに消えたのでしょうか。地方の小さな市長選に介入して選挙をゆがめてしまった政府を私たちは許すことは出来ません。選挙は住民のものであって、国のものではありません。金の力で選挙に介入し、マインドコントロールによって国に服従させ利用することは許されることではありません。復帰 50 年の今年、名護市長選の敗北は大きな痛みとなって私たちにのしかかっています。

☆辺野古新基地のための警備費一日２250万１ヵ月では６億7500万円が税金から使われています。

☆戦争準備法とも言われた土地規制法がいよいよその本体を現し始めました。200 ヶ所が指定されるとのこと。与那国町、宮古島など多くの沖縄各地が含まれます。注視していきましょう。

☆コロナワクチンの死者たち―――

コロナワクチン接種によって、昨年 12 月までに 1400 人もの人が死亡したことが報じられていました。（琉球新報 1 月 25 日）政府はこの人達の死は自己責任とでも言うのでしょうか。ワクチン接種を国を挙げて勧めるからには、死者がいる事実をも明らかに報道すべきです。死因不詳などと切り捨てるのではなくて、国がこの尊い命に対しての保証を負うべきです。健康そのものであった大切な家族をコロナワクチン接種で失ってしまった家族の悲嘆を思いやってほしいと思います。ワクチン接種は体質なども考え、慎重であるべきであり、受けない自由な選択も大切にすべきと私は思います。若くて健康だった御長男を亡くされたお母さんは諦め切れないと思います。このような悲しみをもたらした負の面をも私達は決して忘れてはならないと思います。そして何よりも免疫力を高める食生活、健康生活に努めたいものです。

マルチン・ニーメラーの詩

1950 年代平和主義者　反戦、反核活動家　ドイツの牧師 1937 年～1945 年　強制収容所に収容

ナチが共産主義者を攻撃し始めたとき、私は声をあげなかった。
私は共産主義者ではなかったから。

社会民主主義者が投獄されたとき、私は声をあげなかった。
私は社会民主主義者ではなかったから。

彼等が労働組合員を攻撃したとき、私は声をあげなかった。
私は労働組合員ではなかったから。

彼等がユダヤ人たちを連れて行ったとき、私は声をあげなかった。
私はユダヤ人などではなかったから。

そして、彼等が私を攻撃したとき、私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった。

☆ガンジー魂の言葉から―――

国民にも政府と同じ責任がある。政府や政治家を批判するだけではなく、考えてみよう。人は往々にしてマスコミの報道に振り回され、優柔不断に考えを変える。時計の振子のように、決してとどまることがない。弁のたつ人や根回し上手な政治家をつい支持してしまう。国民にも政府と同様の責任があることを、しっかりと胸に刻もう。

《お知らせ》辺野古の闘いを支援してのご協力を感謝致します。
つながる力うつぐみの会（布リサイクル作品：大野悦子）、あみの会（糸リサイクル作品：山田博子）
両窓口：石原艶子　　※リサイクル着物、布、糸を提供して下さる方は下記に連絡下さい。
〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子
自宅：098-964-3237　　携帯：090-4471-1942　　Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp
〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ